

## 近代への羽ばたき

口語の流動と体系の組み替え

## 上方語と江戸語

東西二つの方言の対立

大阪は天下の台所、江戸は最大の消費都市

アクセントの違いは根本的な違い

関西方言一元だった日本の標準語が江戸時代に関東・関西方言という二本立てに

## 社会のひろがりとおぼ

### 候文の定着

ぎりぎりまで漢文的な性質をそぎ落としつつも漢文性を最後のところだけは残そうとした

手書き世界のものでした候文が、印刷・出版の成熟があつてはじめて江戸時代に成立し得た

### 近世文学における発達の展開

現実肯定の新しい文学様式

俳諧は俗語を文芸に登場させた

浄瑠璃は濡れ場 恋愛描写を可能にした

西鶴は日本の文学ではじめて醜態を描いた

## 江戸時代の出版と教育

営利出版業者があらわれた

書物は安くはなかった

寺子屋は町人を背景に普及した

## 言語の学問としての国学

## 江戸から東京へ

文化文政年間の文化の庶民性

江戸の蓄積で栄える東京

日本語は民族の言葉から国家の言葉になった

「です」にあらわれる江戸語から東京語への推移

言文一致運動、二葉亭四迷と山田美妙

### 句読点の発明

句読点の発明が「国民語」の成立を助けた

### 西欧文明の波をかぶった日本語

オランダ語と英語

落語が速記、刊行された円朝

### 新しい国語の意識とその教育

明治の文語は江戸時代の漢文の延長

仮名づかいと仮名の字体統一、一音に一字

歴史的仮名づかいへの復帰

### 言葉の世界と明治を探る

欧化と漢語流行との矛盾

### 方言の消長

電話 一八九〇（明治三三年）

ラジオ 一九二五（大正一四年）

方言は悪い言葉とされ「矯正」「撲滅」の対象となった

標準語から共通語へ

### 【参考文献】

亀井孝ほか『日本語の歴史』全八巻（平凡社ライブラリー）

後期〈印刷史〉第10回 20121129

## 印刷と「近代」／共通語と俗語革命、「国語」の成立

前田年昭 r-mae@kobe-du.ac.jp

候文の定着

民族の言葉から「国家」の言葉へ

句読点の発明

仮名の字体統一

共通語の広がりへ